

防衛省関連委員会

1.1 委員会設置の目的と経緯

潜水艦耐圧殻用鋼材および加工技術開発を目的にして1959（昭和34）年に防衛庁技術研究本部からの委託研究「船体用特殊鋼材（NS63）の研究」が当協会に初めて委託され、防衛庁関係者をはじめとし、学識経験者、製鋼メーカー、溶材メーカーおよび造船所の各関係者を委員とするHT委員会が組織された。

1969年には防衛庁技術研究本部から潜水艦用新鋼材（NS90）の研究開発を目的とする本格的

な委託研究を受け、NSU委員会が組織された。

1979年に防衛庁技術研究本部はNS80よりもさらに耐力が高いNS110の開発を開始した。また、NS80系材料の実艦適用の段階で生じてきた諸問題についても研究を行う必要があり、NS110開発を主目的とするNSU委員会の他に各種委員会を起し、さらにこれらをまとめるNSU総合委員会（委員長：藤田 譲）を設置した。

1.2 この10年の活動状況

NSU委員会は2004年までに上記の活動を完了した。研究期間は20年を超える長きに亘った。NSU総合委員会では、2005年～2007年の3年間、NTR委員会（委員長：豊田政男）を設置し、NSU

委員会における超高張力鋼NS110鋼の開発と溶接技術に関する研究成果を取りまとめ、2008年11月26日に開催された委員会においてNSU総合委員会の活動を休会することが承認された。

1.3 その他の防衛省関連委員会

NSU総合委員会とは別の委託研究として2001年～2003年HTS委員会「高張力鋼の艦船への適用性に関する調査研究」（委員長：藤田 譲）、2004年～2005年HTS委員会「高張力鋼の工作基準基礎資料作成に関する調査研究」（委員長：町田 進）、2006年YNK委員会「溶接熱影響等による強度低下を考慮した構造設計に関する調査研究」（委員長：宮田隆司）が設置された。

その他、防衛省より発注を受けた民間企業からの協力要請により、学識的観点からの技術評価委員会として、2005年～2007年AHS委員会「先進船体材料・構造の研究試作」有識者連絡会（委員長：宮田隆司）、2008年HSC検討会「水素貯蔵容器製造技術に関する検討会」（委員長：豊田政男）が設置された。